

はっこう横綱

残さ、残根の有機物は
リサイクルで有効活用

住商アグリビジネス株式会社

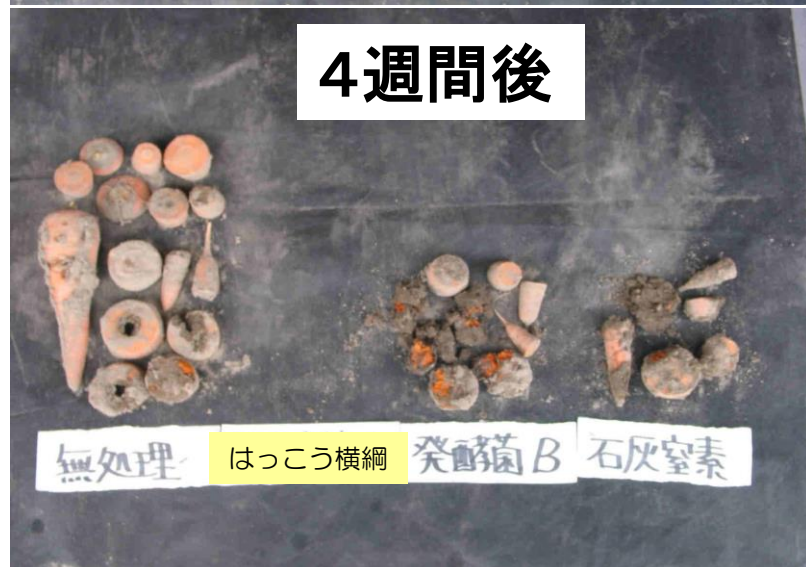
枯草菌の持つ機能（4つのチカラ）

- ①**分解力**：セルラーゼ、リパーゼ、プロテアーゼの酵素類を分泌し、土壌中の未分解有機物（作物残渣・残根）を速やかに分解し、無害化。
- ②**静菌力**：イチュリン、サーファクチン、プリパスタチンの抗菌物質を分泌し、土壌中の静菌力を高める。
- ③**団粒形成力**：ポリサッカロイド（多糖類）を分泌し、団粒形成を促進し、保水性・排水性・保肥力を高める。
- ④**リン溶解力**：有機酸を分泌し、土壌中に蓄積されたリン酸を可給態化させます。

はっこう横綱のちから①分解力

ニンジン根部腐熟試験

埋込日:7月14日



はっこう横綱のちから

軟弱野菜周年栽培 回転率向上

収穫後、圃場に残る根を素早く分解することで、次作の播種を早めることが出来る。
圃場回転率の向上を図ることになる。

施用日：6.28

コマツナ残さ分解 3袋/10a（換算）

<残さすき込みと同時施用>

<施用後5日目>

<施用後15日目>



はっこう横綱のちから

キャベツ・ハクサイ残さ鋤込み



- 残さは病原菌の住み家になりますが、それを素早く分解することで病原菌の増殖を抑え菌密度を下げます。

○効果

- 外葉や茎など、残さを素早く分解するので、連続して作物を作る場合には次作の準備に余裕が出来ます。



はっこう横綱のちから

秋まき小麦あとの水稻栽培試験

(60kg/10a)

腐熟試験結果

試験区



無処理区



根張り調査結果

試験区



無処理区



「はっこう横綱」を使用すると、ワラの腐熟が早くイネの根張りが良い。

はっこう横綱のちから

ソルゴー腐熟促進試験



9月12日 ソルゴー鋤込み 50kg/10a



9月24日 耕耘



10月7日耕耘

10月9日 畦立定植

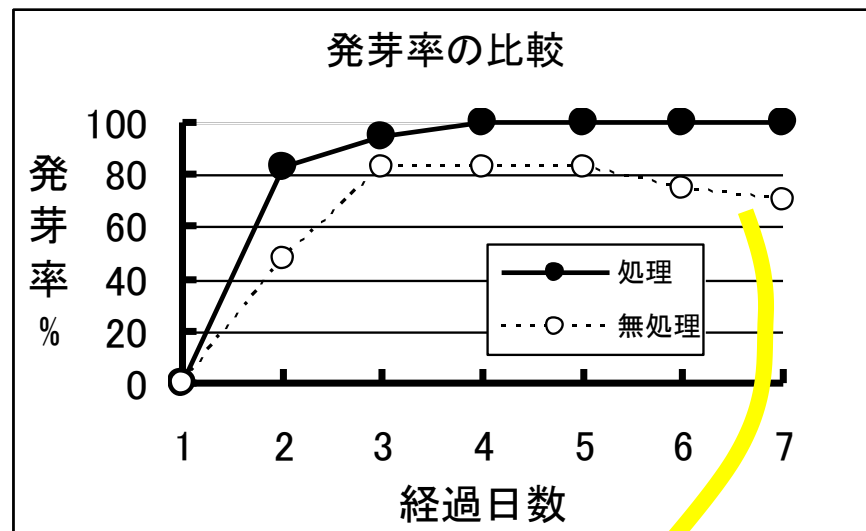
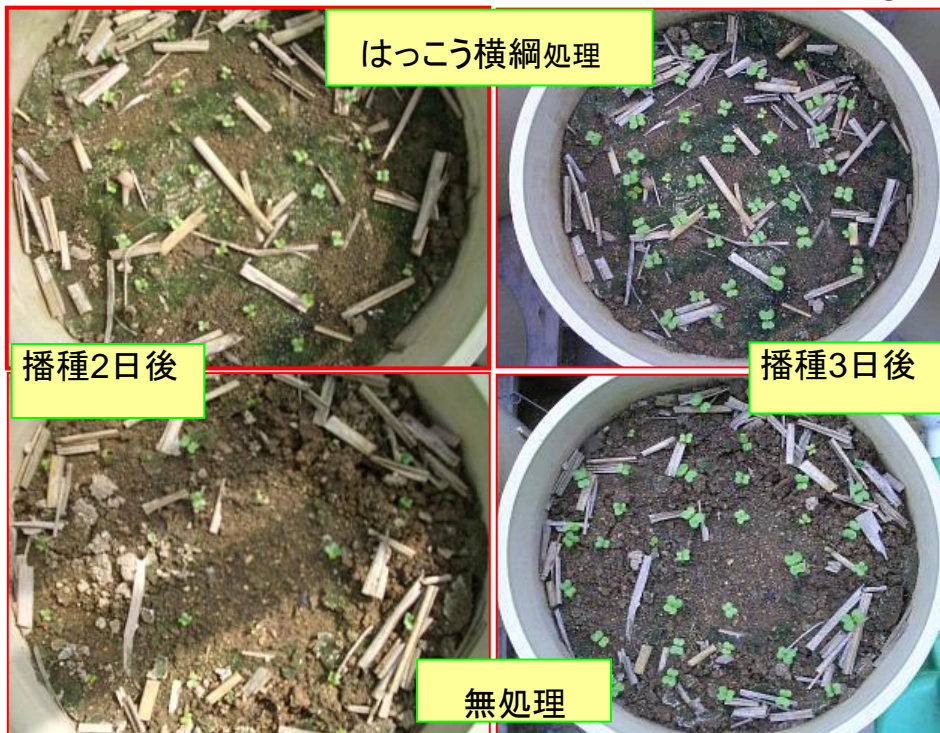
畦立て時にソルゴーは若干残っていたが、定植や苗活着に問題はなかった。

はっこう横綱のちから

病原菌抑制能力

畑土にワラとはっこう横綱を鋤き込み、3週間後にコマツナを播種して発芽の状況を比較した。

45kg/10a



残渣が残っていても問題が起きにくい。
処理区は一見して発芽率と揃いが良い。

クロルピクリンとの併用(ニンジン)

三興株式会社

はっこう横綱とクロルピクリンを併用した時の腐熟促進効果(ニンジンすき込み)



はっこう横綱+クロルピクリンを併用しても、はっこうの腐熟促進効果は残っていた。
クロルピクリン処理後、酵素を使用することが作業上無理なときは併用することも可能です。
土壌消毒後バチルスが優先して増えて病原菌の入り込みを抑える効果も期待できます。

はっこう横綱の用途と使用方法

稲ワラ・麦ワラの分解 野菜残渣・残根の分解 緑肥の腐熟促進 多年性雑草の地下茎・塊茎の分解	10a当たり3～4袋(45～60kg)を散布して鋤き込んでください
堆肥の発酵促進	トン当たり3～4袋(45～60kg)を散布して混ぜ込んでください
太陽熱消毒の補強	太陽熱消毒前に10a当たり8袋～10袋(120～150kg)を散布して鋤き込んでください
土壌消毒後の微生物相改善	土壌消毒後にガス抜きをした後で、10a当たり5袋～10袋(120～150kg)を散布して鋤き込んでください

「はっこう横綱」施用量分の元肥肥料を減らすことができます

病気は残渣・残根で増える

- 地上部病害の多くは土中の被害作物(罹病残渣・残根)で増殖し越冬・越夏する。

一般に罹病した茎葉(地上部)は圃場外に持ち出して処理されることが多いが、見落とされがちなのが残根。

従って、圃場衛生面から見て、残渣・残根の適正処理まで考える必要がある。

残根処理が重要なのは害虫も同じ



キュウリ連作ハウスにおいて、殺センチュウ粒剤と「はっこう横綱」の併用試験。

根こぶ指数 併用区43.8 単用区81.3 被害度に大きな違い。

「はっこう横綱」で残根分解を早めることで、薬剤の効果が上がっている。